

～砂田賞～



河合 勇介

略 歴

昭和50年3月2日生
平成12年3月 鳥取大学医学部卒業
平成21年6月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修了
平成12年5月 岡山大学医学部附属病院循環器内科 医員（研修医）
平成12年6月 倉敷中央病院内科研修
平成14年6月 岡山大学医学部附属病院循環器内科 医員
平成14年9月 国立病院岡山医療センター循環器科 医師
平成17年4月 心臓病センター榊原病院循環器内科 医師
平成19年4月 福山市民病院循環器科 医師
平成21年4月 尾道市立市民病院循環器科 医師
現在に至る

研究論文内容要旨

経皮的冠動脈形成術（PCI）後にしばしば発生する冠動脈slow flow現象（SCF）により様々な合併症が起こりうるが、それを予防するための方法として確立されたものはない。今回PCI前のニコランジル経静脈的ボラス投与がPCI施行後のSCFを抑制しうるか否かを検討した。まず12人の安定狭心症患者に対して、1mg、3mg、6mgのニコランジルを経静脈的にボラス投与し、ドプラガイドワイヤを用いてそれぞれの場合の平均最大血流速度（APV）を計測したところ、6mgで有意なAPV上昇を認めた。そこで、408人のPCI施行患者を6mgのニコランジル投与群と非投与群に振り分け、SCF発症率と予後を検討した。結果、急性冠症候群（ACS）、non-ACSいずれにおいても、ニコランジル投与群においてSCF発生率が有意に低下した。ACSにおいては、ニコランジル投与群において再血行再建施行率が有意に減少した。